



いいなり

!

ハ

の素晴らしさ
紅魔族を



全ページフルカラー
基本CGなんと20枚!
本編73枚
文字無し差分73枚
合計146枚

るるん



願いを叶えられないと
死んでしまおう魔道具を
つけてしまったカ●マ。。。



**仲間を助けるために2人の少女が
協力してくれることに!**

しかしカ●マの願い事とは…



とってもエッチなものだった!?

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

!!
!!
!!



2人はカ●マの願いを叶えることができるのか!?



野球拳

牛乳浣腸我慢比べ



容赦ないクリ責め！

**仲間が聞いているのに
子宮までガン突き！**





大切な仲間を助けるために
2人の少女が落ちていく——。







どうも、カズマです。

みんなで来たウイズの魔法道具屋にて
床に転がっていたチョーカーを
何気なくつけたら



自分の願いを叶えられないと
四日後には死んでしまう
とんでもない魔道具でした。

あほかー!!

うう…このままでは死んでしまう。
そこでチヨーカーをはずすために
みんなが協力して
俺の願いを叶えようという話になった。

私たちに
任せてくださいよ。

何でも言ってください。

いや〜もつべきものは仲間だなあ。
さて、なにをしてもらおうか…??



うーん眼福眼福♪

相変わらず変態ですか！
変態ですね！
こんな服の一体なにがいいんですか!?

コスプレがカズマさんの
願ひなんですかあ…
恥ずかしい…
チョーカーははずれそうですか？

はずれないなあ。
どうやらこれは俺の
心からの願ひではなかつたのかもしれない。
2人とも…すまない…
だ、大丈夫ですよ！



(そんなことよりもあそこが勃つてきた)
しょうがない…2人とも、これを舐めてくれ。

はあ!?

どん!!

え、えええ!?



大きい…。
こんなのなっ舐められるわけないでしょ!!
汚い!!
絶対に無理!

めぐみんがんばろう!
カズマさんのチョーカーがはずれないと
死んじゃうんだよ?
私舐めます…!!
(めぐみんができなくても私にはできるっ…!!)

わ、私！なめられますよ!!!
カズマさんの生死が
かかってますからね!!!

へえ!? ゆんゆん!?

ドキ
ドキ

!?



ハアム!
ムグムグ

(ううっこんなに大きいの回に入らない...!
それになんかしよっぱいしくさい...)

じゅぽ
じゅぽ
じゅぽ

(おお...回の中ちいさ...)

ゆんゆんはもつと激しく音たててやつてくれたなあ。

ウグツ...ジュツポジュツポジュポジュポ...
ほ、ひょうでしゅか?

はっ
はっ
はっ

ああ、気持ちいいよ...。
(対抗心煽ればなんでもするなあw)

びゅるるるるるるっびゅくっびゅくっびゅくびゅくびゅく
んぶう!!
んぐっぐっんんんっごくん!
に…甘い!
勢いすぎて飲んでしまったんですけど…!!

ビュルル

（うう…ねばねばして臭い…♡すぞぞ♡ぢゅるぢゅる♡）
どうですか？満足していただけましたか…？

はあ…はあ…最高…。

しかし2人の頑張りもむなしく
俺のチヨーカーがはずれることはなかった。

欲望のままにオバカっ娘二人に野球拳させてみた。

ふたりともがんばれー(棒)

(對抗心を煽ればなんでもやるからなあこいつらは。)

じゃーんけーん、ポンツッ!

な...!?!
この紅魔族随一のエリートである私が負けるとは...!?!

はははっ。
その称号はどうやら私のものだったようねめぐみん!
くっ...。



まだまだ勝負はこれからですよっ！

（うわあめぐみんの乳首・・・きれいなピンク色・・・）

じゃーんけーん、ポンッ！



ふう...危なかった...!!
しかしやはり私が勝つんですね!
さあさあゆんゆん脱ぎなさい!
ふええ!!



うう~~~~!!

ちなみに勝負は全裸になるまでだぞ〜

ええーっ!?

あいこーでしょ!
あいこーでしょ!

(とりあえずあいこを続けさせれば……)
(裸になるのだけは避けれる……!)



ふあっ!?

しよ!
はい俺の勝ち。



ずつとあいこのままにして時間稼ぎしてただろ。
二人とも勝負から逃げていたよね？
それじゃだめだよ？
罰として二人ともパンツ脱いで。

うう…確かに勝負からは逃げていました。
すみません…。
脱ぎます…。
ゆんゆん!?



脱ぎました…。

ゆんゆんは脱いだけどもぐみんはどうするの？

わ…私だって!!脱げますよ!

うう、はずかしい。

すばらしい!

君たちの俺に対する愛を感じたよ。

(…るるるるおまんこ丸出してかわいいなあ。)

うう…

は…はい…。

はあ…。

ぽんぽん♡

ぽん♡
ぽん♡



でも野球拳の勝負がつかかなかったなあ。

ちよっと：おしり揉まないでください：！！

このままじゃどつちが紅魔族のエリートかわっかんないな！

そんなの私にきまつてるじゃないですか！

でも俺にじゃんけんて負けたよね。

うっ。。。

じゃあ次は我慢比べで勝負する？

我慢比べ。。。？

よくわかりませんがここまできたら
なんであるとうけてたちます！

え。。。ええー！

うう。。。私だつてえ負けませんよ！

覚悟しなさいめぐみん！

もみもみ

我慢比べ

では今から君たちには
それぞれこの牛乳浣腸を注入していきます。
我慢できずに先に漏らしたほうが負けです。

かかか、かんちよ〜!?



ぷすつと注入していきまーす♪
力抜けよー？

でーん

はーはー

はあ

はあ

やだっなにこれ冷たいっ!!

ひああんっ。

ああっどんどんはいっってくる…お腹がふくらんでいく!

く…苦しい…!

がんばれよー♪

いついやあっいやだあっ!

白い牛乳がどんどんおしりからはいつてるぞー♪

ちゅわん

ちゅわん

よくがんばったな！全部入ったぞ。
あとは三人とも漏らさないように
しっかりとしりおりの穴に力入れてしめるんだ。

はあ……はあ……
注射器抜くぞ。

ちゅぽんっ
はあっああん……。

お腹がぱんぱんっくるしいですう……。

ぐぎゅるる

はあ……はあ……ふうっ……。

妊娠してるみたいにお腹が膨らんでるなあ。

やだあ……はあ……はあ……くるしい……。

2人ともけっこうギリギリの状態か？


ぎ……ギリギリです!!

いま気持ちよくしてやるからな？

へっ？

ぐんぐん

はあ……はあ……



カズマにさんざん遊ばれつくした2人は、
勝敗が決まらなかった落胆と疲労のなか
それぞれの部屋にもどったのであった。

トントントン(扉を叩く音)
「ん？こんな時間に誰だろうか丁寧なノックまでして……」
「どうぞー！ー！」
ガチャ

ガチャ

「お、おじやまします……。」

「ゆんゆんっ!？」

「そ、その迷惑だったらすみません!!!」

「ゆんゆんじゃないか。」

「こんな遅くにどーしたんだ?」



「あの…野球拳の勝負で…し、勝敗がっ！
ついてないので…」

「うん？」
「だから…、かずまさんに勝ち負けを
決めてもらおうと思ひまして……。」



「待て、これはハニートラップか何かか？

そんな感じにも見えないし……。」

「というかトラップだったらむしろそれに

乗つかれば俺には何の責任もなくなる……か！」

「なるほどなるほど。」

「つまりはめぐみんに勝つための個人トレーニングの

コーチをしてほしいって事だな。」

「よしよし、よく分かった！」

「そっそうなんです……!!!」

「是非お願いします！」

「しかしわかってるとは思うが

俺のトレーニングは厳しいぞ？」

「途中で投げ出すとかはもっての外だ。」

「できるかな？」

「できます!!!」

「よしーじやあまらずおっぱいを見せなから」
「えっおっぱい？」



……
!?

「そうだ。おっぱいを出すんだ。」
「それはちよつと……」
「おいおいなんだ、ゆんゆん。」
「さっそく諦めるのか？」
「うっ…分かりました」

「うーん……やはりでかい。
やっぱりこのお胸さんは
めぐみんなんかとはいくらべものにはならなげよな。」
「あんっ……あ、ありがとうござりますー！」
♡モニュ♡

「なんてずっしりとした重み。
しかしこれだけの大きさ……
胸筋にかなり負担がかかってる。
まずはトレーニングの前に準備運動からいこうぞ。」
「あ……は、はい！」

♡モニュ♡

「よし、しばらくこの体勢をキープだ」
「これ…、準備運動に…なってますか？んんっ…♡」
「もちろんだ。気を引き締めるよ。」
たとえこんなふうにも乳首をこりこりさせられても
ぶれない精神力をみにつけるんだ。」
こりこりこりこり…

「ああんっ…♡
は、はい…！」

ムクムク

んんっ♡

ムクムク

ムクムク

「まさか気持ちよくなってるのか？」

「ちがっ♡」

「声がうわずってるぞ？」

「ごめんなさいっ！」

「がんばります…。」

(そういえばこの時間アクア達が散歩にいくっていつてたな...)

ジュルル

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

ジュルル

「ふ〜…よし次はベランダでトレーニングはきもちいぞ。」

「はぁはぁ……。」



「じゃあそこに手をのけておしりつきだそうか。」
「は、はずかしいです…。」
「こうですか？」
「いいぞいいぞ！
その姿勢をキープだ。」

パリン♡

トキトキ…

「お…？
アクアたちがしたにいるぞ。
丁度いい。ゆんゆん挨拶したら？」
「え、うそでもいまこんな恰好で…っ。」





ビクッ ビクッ

はあ... はあ...

はあ...

ビクッ

んんん

ズン

「おいアクアー！」

「ダクネスー！」

「ん？」

「あれってカズマとゆんゆんじゃない？」

「そんなところで何やってるんだー？」

「ゆんゆんに特別授業してるんだよ」

「特別授業？」

「今日あれだけやっついて…、まだ遊ぶつもりかしら？」

「ゆんゆーん大丈夫ー？」

「ヒクシ」

「ドキ」

「ドキ」

「うそそうそ!? どうしよう!!
こんなことしてるなんて
絶対にバレたくない!!!
な、なんとかやりすぎじゃないと…」

「たゆん」

「？」



「おい、聞かれてるよゆんゆん。ちゃんと返事したら？」

「は……はいっ
あっ、あの、だ、大丈夫…、れすううう……！」

「あれ？まんこが締まったぞ。興奮してるのかな？」

「ちっちがっ…違いますっ。
(やめてっそんなに激しく突かないで……！)
はあっ…ああんっ……！」

「なんか…だ、だいじょうぶじゃなさそう……？
ちよっとー！ほんとに大丈夫なのー？」
「カズマたちはなにをしているんだ。まさか、セックスR？」





「あええっと、ち、ちがいま…ひあっ、あんっ…」
「厳しいトレーニングメニューをやっているとだから、
今しんどい所なんだよ。」
二人とも応援してやってくれ。」

「あー、そゆこと？」
「がんばれーゆんゆん。極悪畜生カズマに負けるなよ！」
「はひっつい♡ま、負けま…せん♡ひっ♡ひあっ♡」

は…♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

「あたしたちもう寝るからー、あんたらもほどほどにねー!」

「ほらゆんゆんおやすみなさいは? あの2人に挨拶。」

「あっ♡はいっ、おやすみなさ...さ...イ...い...
...い...い...い...い...い...い...
いままそんなにつかれたらっああ!♡いっ♡
いっちゃんのおっ♡っんひいひい♡
んあっあっあっあっあっあっあっあっ♡
イツイきましゅうううううう!♡♡♡♡♡」

ビク♡
ビク♡

あ...い...

あ...い...

あ...い...

は...い...

い...い...い...



「あーあー、今の間に何回イってたんだけ？
まったたく…これじゃあ全然トレーニングに
なっていないじゃないか。」
「はあ…♡はあ…♡♡♡
す、すみません…。」

ムワァ…

ポルポル

はあ

はあ

「よし次、片足持ち上げて。」

「え…？」

「こ、こうですか…？」

「うーんいい眺め。」

「このまままた入れるぞ。」

「ま、また…♡♡待って、あ、あわあ…♡♡」



「あひいッッ!!!♡♡♡♡♡」

「こっちの体勢も気持ちいいか?」

「ひいイ♡これ♡」

「きもちいい♡ですウ!♡♡」

「そんなな情けない声で喘いで
まるで家畜みたいだな。」

「そうだゆんゆん、

友達にはなれないけど

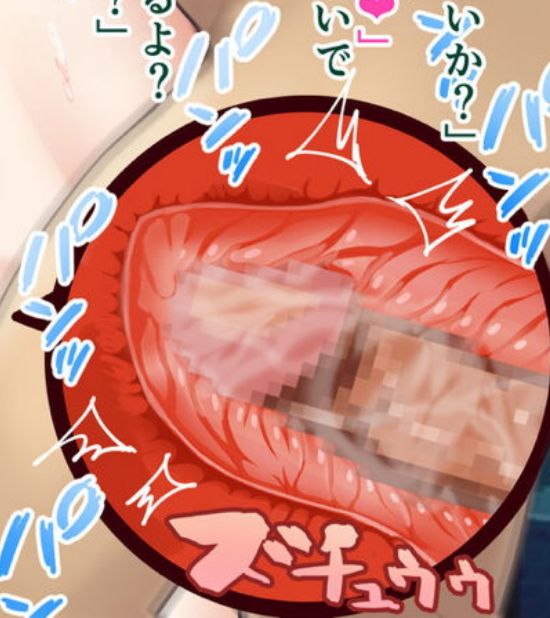
俺専用の家畜にならなれるよ?

「ゆんゆんはブタさんかな?」

「かちくう?♡はいっ♡♡」

「ブタでしゅう♡」

「ゆんゆんはブタさんにな
りゆましゅう!!!♡♡」



ビク

ビク

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

「いい子だ。ブタなら妊娠しないよね?
中に出すからな?」
「ふええっ!!」

あんあんあん
あんあんあん

ブルンブルン♡
ブルン♡

ハッハッ♡
ハッ♡

「ブタが人間様に逆らうの？」

「いつ、いえッ」

「ちゃんと精子くださいって
ブタらしくお願いしてみな」

「ひ、ひい」

「ほらはやく」

パンっパンっパンっパンっ

「ひい、はひイイツ!♡♡♡

せ、せえしくだしやあイツ!♡♡♡

「中に出すからな、いけっ!!!」
びゅるるるるるるるるる!!!

From,

ほんっ

ほんっ

ビクッ
ビクッ
ビクッ

は...♡♡♡

は...♡♡♡

は...♡♡♡

「ふあああッ!♡♡♡

精子いっぱい中にだされてイってましゅううッ!♡♡♡

子宮きもちいい!♡♡♡気持ちいいです!!♡♡♡

精子で子宮イってましゅううウウウッ!♡♡♡♡♡♡♡

ほんっ
ほんっ
ほんっ

ビクッ
ビクッ
ビクッ

ビクッ
ビクッ
ビクッ



みんなでお風呂に入る。
それもカズマの願いの一つであった。
しかしアクアが水の女神としての力を使うと
地中から湧き上がった天然温泉がかずまのアナルに直撃。
しばし悶絶していたのであった。



「あの、大丈夫ですか…?」
「チョーカーで死ぬ前にお尻で死んだかと思いましたがよ。」
「ほんとだよ! もっと労わってくれよ…。」
「まあ感じていたようにも見えましたが…。それで、
なんで私だけ呼び止められてるんですか。
もうみんな上がりましたけど?」

「俺は別に〜みんながいても全然構わないんだけど〜
めぐみんが困るのかな〜って。
確かさっきぼくの股間みて顔真っ赤になってたよねえ?」
「な!? な、なっていないですよ!」
お風呂場で長い事いたからあ〜そう、のぼせたんですよ!
それはカズマの勘違いですよ。」
「あははなんたそうかあ。勘違いかあ…ってことは
もう1回見たとしてもめぐみんは顔が赤くなったり、
ましてやあそこが濡れちゃったりするなんて事
ないですよねえ?」



「はあああああ?」
そんなわけないじゃないですか!
カズマの租チンくらいもう見慣れてますから!」



!?

ビクッ

おちびッ

「ほうほう、じゃあ確かめさせてもらおう。」
「ひゃっ、きゃあああああ!!!どこ触ってるんですかあ!!!」
「おまんこだよ?」
「はっきり言わないでくださいー!」



「ってあれえ〜？　なんか濡れてるなあ？
このちっちゃくたったクリトリスはなんだあ？」

「うっ……あっ……やめ……っ。こっ、これはっ……ッ。」

「顔も真っ赤になってるぞ。」

「もも、もう、のぼせちゃったから！」

「はは……か、体が変になってるんですよ！　はは……んん……！」

「コリコリするとぬるぬるになってきたぞ？」

「い……いやあっ……。」

「コリコリ」
「ナニ〜……」

「コリッ」

「びびり」



「大人のめぐみんはこのぬるぬるになったおまんこに
チンポを入れても感じたりしないよね？」

「はい……えっ？ い、いあいあ！！
な、なにいつてるんですか!!?
えっ……入れるって……ま、まじですか!!?
「うんまじだよ。」
「う……。」

おちがッ
おちがッ

こり♡
こり♡

「……おねだり？」

「おまんこ広げながら

「かずまさんの大人のおちんちんを

子供まんこにいれてください〜』って言うって。」

「ひええっ……!？」

「ほら早く。ほしいんでしょチンポ。

こんなにまんこぬるぬるにしてつらいよね？」

(グチュグチュ)(ちんこをまんこにこすりつける音)

「はあっ……♡」

アパア♡

ぐちゃ♡

「カ、カズマのおちんちん…、」

私のおまんこに…
いっ…入れてくださいっ!!」

きゃん♡

むわぁ…

「よく言えました。
ご褒美にいれてあげるからね。」
「あっ……んんん……!! はあ……♡♡♡」

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

♡

「すごいよめぐみん…きつつきつだよ中…。」
「ひゃあああ！カズマのおちんちんが…
おちんちんがはいってる！
体の中がおちんちんで
いっぱいになってる感じがするー！」
「ゆっくり動かしてあげる。」
「えっ…？うごかす…？」

んん…



「あっ…おっ…おおっ…❤️」
「あれ？ちよつと動かしただけでイっちゃった？」
「…い、イッてないですよ…!!」
「フリをした…だけです…よっ。」
「本当？もつと動かすよ？」
「え、んんっああっ…はああっ…❤️❤�」

アッ
アッ

びん

は…は…

は…は…

びん



「あれー？ まだあの二人お風呂入ってんのー？」
「そうなのか？ おーい二人ともー」

「アクアとダクネスが来ちゃい……ますっ……よ……！
やばいです……！一回とまっ……てえ……。」

「あれ？ どうしたためぐみん。さっきより中がしまりだしたぞ
（やっやめてっ動かないで！
イツ……みんなの前で……やアツ……♡♡）

（しよがないな、腰動かすのやめてあげるから
ちゃんとアクアとダクネスに返事して）

キヤン♡♡

ぴん……

ビクッ
ビクッ
ビクッ



ドキドキ...

はぁ
はぁ

……
……

「だあ、だいじょぶれす！」

もう、あがるところれすよおー！」

「長風呂も程ほどになー。」

「ねえねえあの二人…まさか

エロいことしてるんじゃない？」

「えっそ、そうなのか!? おっおい!! カズマー!!」

「なにいつてんだ。変態もほどほどにしておけよ。」

「きやうつ。変態…♡」

「もうダクネス何感じてんのよ…ってか

ほんとにだいじょぶ?

めぐみんー?」

はぁ
はぁ

はぁ
はぁ



ガッガッ

…♡

…♡♡

きゅん♡きゅん♡

ふゅー♡

「だいじよぶだよ。めぐみんお風呂きもちいいってさ!」
「あんためぐみんになんかしてんじやないの?」
「カズマ!めぐみんをいじめるなら私が代わりに!」
「ダクネス…はあ。もうバカ言っでないで行くわよ。」

(…なんとか行っただみだいな。)
「はあ…はあ…、いっちゃいました…。」♡♡

フシヤ



「よいしょっと。」
「ふえっ!!だめっ…あっ…もうイツ、たのに…!!!」
「俺がまだイツてないからね。」

ズパッ!!

「おっ♥♥おっ♥♥いま♥♥いったのにっ♥♥」
「この姿勢すごい奥まで突けるわ…」
どうめぐみん、子宮に俺のチンコ届いてるでしょ?
子宮口がすいっついてきてるよ…。」
「いっいいわなこれえ!♥おちんぼ奥まで届いて
しゅっ…しゅっごいですう…!♥
さっきいったばかりなのに…んおっ!♥♥」

おほっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ



「いやあ…♥あひっ……♥」

「やばいよめぐみんの中、

きつぎつのぬるっぬるで締めまりまくって

気持ちいいよお〜。」

「はっはひっはひっ♥しゅごっちんぽっしゅごっちん……♥」

「ああ〜気持ちいい。……でそう。

精子でそうだめぐみん。出すよ。」

「はへっ!!…なっ中に…!!」

中には出さなさいですよね?」

おっちゃん
おっちゃん
おっちゃん

!?

おっちゃん

おっちゃん

おっちゃん

おっちゃん

おっちゃん
おっちゃん

おっちゃん

おっちゃん

おっちゃん



「いく...っ!」
「えっ中っああ! ♡ 駄目っ ♡ ♡
イくう...イグウウウウウウウウウウ!! ♡ ♡ ♡ ♡ ♡」

♡

ド
カ
ッ

「ああ…めぐみんの
きつぎつロリマンコ最高…。」
「はあ…はあ…また、イツちやいました…。
これで、私大人になれましたか？」

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

♡

♡

「そうだね。」

「これからも俺の精子

受け止めてくれたらね…。」

「なっ…!!？」

「た、たまになら…、

いいですよ…?」

「あれ、チョーカーが外れてる。」
「やつ、やつぱり変態…。」

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

（みんなには適当に
癒されたから取れたって事にして
ごまかしておこう…。）



完



















うわー

びしょ濡れ!





ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウ

ジュウ

ジュウ

ジュウ













ふふふ...

No.20

No.20



もももも





はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

ちゅん

ちゅん



おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...

おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...

おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...

おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...





は...は...は...

は...は...は...

爽やか

は...は...は...は...は...は...は...は...は...は...

は...は...は...は...は...は...は...は...は...は...

は...は...は...

はあ

はあ

はあ





おはよう











はは

はは

はは

はは

はは

はは



れろ

れろれろ

...

...

...



はぁ
はぁ

はぁ
はぁ

はぁ

はぁ

はぁ
はぁ
はぁ

パクリ♡

下下下...





ビクッ ビクッ

はあ... はあ...

ビクッ

んんん

ズッ ズッ



ちゅっ

はっはっ

はっはっ

はっ

はっはっ

はっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっ

はっ

はっはっ

はっはっ

ズチュ

ズチュ
ズチュ
ズチュ



トクミ

ドキ

ドキ

たゆん

?





アツアツ
アツアツ
アツアツ
アツアツ

アツアツ
アツアツ
アツアツ
アツアツ

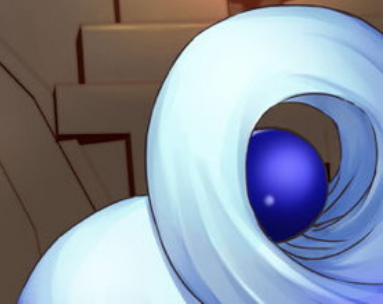
は...
は...
は...

アツアツ

アツアツ

アツアツ

アツアツ





ビク♡
ビク♡

あふ♡

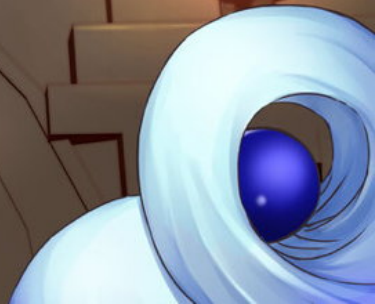
あふ♡

あふ♡

は...♡

あふ♡

あふ♡





はぁ

はぁ

うん...うん...

うん...うん...





ピク

ピク

♡♡♡

♡♡♡

あんあんあん

♡♡♡

ブルンブルン

ピク

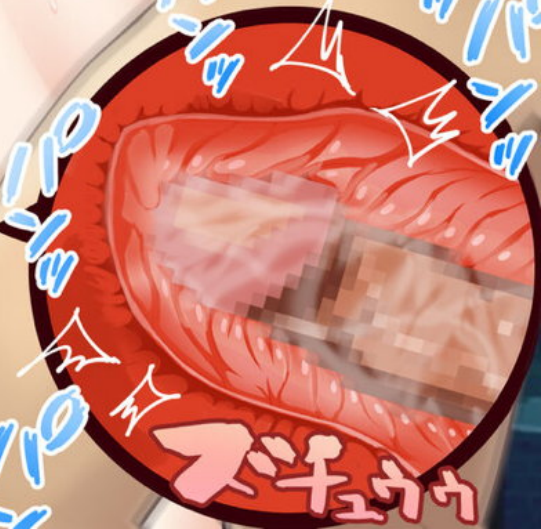
ピク

ピク

ピク

ピク

ズチュウ





は...♡♡♡

は...♡♡♡

はんっ
はんっ
びびっ

はんっ
はんっ

はんっ
はんっ
はんっ
はんっ

はんっ
はんっ
はんっ
はんっ
はんっ
はんっ
はんっ
はんっ





はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

ばっ

ばっ

はっ













アハハハ

ぐちゃ



きゃん♡

むわあ...



キラキラ

ちゅちゅ





ん

ん

ん...



は...は...

は...

は...

び...

び...

び...



ピクピク

キテク

びび〜

♡♡♡





ドキドキ...

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ







ガッガッ

...

...

おっはー
BB

おっはー
♡おっはー♡
おっはー♡

おっはー♡





ズパッ!!!

おっぱい

おっぱい
おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい
おっぱい

おっぱい







はっ

はっはっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっはっはっはっ

はっはっはっはっ

はっはっはっはっ

はっはっはっはっ

はっはっはっはっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ



カクカク
カクカク
カクカク

カクカク

カクカク

カクカク

カクカク

カクカク

カクカク

カクカク

カクカク

カクカク
カクカク

カクカク
カクカク

カクカク...
カクカク...
カクカク...





大好き♡

大好き♡

大好き♡

大好き♡

大好き♡

